

## 日本免疫毒性学会 2020 年総会審議記録

### 1. 日時等

- 形式：メールによる開催
- 日程：2020 年 9 月 28 日（月）～10 月 4 日（月）  
審議事項回答期限：9 月 30 日（水）13:00

### 2. 審議結果：

#### 2.1. 審議事項

回答 44 名全員の賛成により可決

- 会計（2019 年度決算案、2019 年度会計監査報告、2021 年度予算案）
- 人事（名誉会員、理事交代、新評議員候補、次々期年会）
- 2020 年度事業計画

#### 2.2. その他

- 総会資料の HP 掲載に関する意見

中西 剛（岐阜薬科大学）：「総会資料は履歴として残すモノだと思imasuので、今回のような場合はダウンロードできるようにするのが望ましいと思imasu。」

- 総会の議事録及び資料は「資料・情報」ページに掲載されている。本年度のメールによる審議結果及び総会資料を同様に掲載する。

方法：メールによる総会

日時：2020年9月28日（月）～10月4日（日）

議事次第

I. 報告事項

- [1] [総務報告（久田総務委員長）](#)
- [2] 学術年会報告
  - ① [第26回開催報告（佐藤前年会長）](#)
  - ② [第27回準備状況（角田年会長）](#)
  - ③ [第28回準備状況（手島次期年会長）](#)
- [3] 委員会報告
  - ① [学術・編集委員会（小島委員長）](#)
  - ② [広報委員会（西村委員長）](#)
  - ③ [試験法委員会（申間委員長）](#)
  - ④ [連携学会委員会（吉岡委員長）](#)
  - ⑤ [将来構想委員会（黒田委員長）](#)
- [4] [事業報告（中村理事長）](#)（業務年度：10月から翌年9月末）

II. 審議事項

- 1) [会計（小池理事）](#)（会計年度：4月から翌年3月末）
  - ① 2019年度決算案
  - ② 2019年度会計監査報告（野原監事、森本監事）
  - ③ 2021年度予算案
- 2) [人事（久田総務委員長）](#)
  - ① 名誉会員
  - ② 理事
  - ③ 評議員候補
  - ④ 次々期年会長
- 3) [事業計画（中村理事長）](#)

## I. 報告事項

### [1] 総務報告

#### ① 会員数（2020年3月31日）

一般会員	157名
学生会員	16名
賛助会員	0名
名誉会員	12名

#### ② 入退会状況（2019年度）

入会	20名
退会	29名（会費未納による退会11名、会則(会員)第5条(2)より）

#### ③ 役員数（2020年3月31日）

理事	20名
評議員	47名
監事	2名

#### ④ 学会 Web サイトバナー契約現状

No.	会社名	新規/継続	契約日	期間(5月更新)	区分	学会担当者
1	ミルテニーバイオテック株式会社	新規	2020/8/18	2020/9/1-2021/4/30	掲載中	西村理事
2	バックマン・コルター株式会社	新規	2020/8/25	2020/10/1-2021/4/30	2020/10/1 掲載予定	中村理事長
3	ライカマイクロシステムズ株式会社	新規	契約書待ち	2020/10/1-2021/4/30	2020/10/1 掲載予定	黒田理事

#### ⑤ 会議の開催

運営委員会 第69回	2019年12月27日	Web会議にて開催
第70回	2020年7月24日	Web会議にて開催
理事会 2020年度理事会	2020年9月23日	Web会議にて開催
総会 2020年度総会	2020年9月28日～10月4日の審議期間	メール会議で開催

学会賞・奨励賞の推薦依頼（2019年12月～2月末）

会費納入アナウンス（2019年11月、2020年1月、3月、4月、7月、8月 メールおよび文書にて）

評議員推薦の案内（2020年7月17日～8月17日）、推薦資料のとりまとめ

学会賞・奨励賞の賞状と記念品の準備

## [2] 学術年会報告

### [2-1] 第26回@北九州

**第26回 日本免疫毒性学会学術年会**  
The 26th Annual Meeting of the Japanese Society of Immunotoxicology  
「免疫毒性学 基礎から臨床へ」  
2019年 9月9日(日) 10日(火)  
会場 北九州国際会議場 国際会議室(2階)  
年会長 佐藤 実 (産業医科大学産業保健学部 成人・老年看護学講座 教授)  
特別講演  
"Immunotoxicology of inhaled nanoparticles and the implications for lung disease susceptibility"  
James C. Bonner, Ph.D.  
教育講演  
田中 良哉 先生 (産業医科大学 第一内科講座 教授)  
矢寺 和博 先生 (産業医科大学 呼吸器内科学講座 教授)  
シンポジウム：免疫毒性から見た炎症と病態  
試験法ワークショップ：免疫毒性AOPの開発とその目指すもの  
共催：日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会  
協賛：北九州市 (公財) 北九州観光コンベンション協会

**第26回 The 26th Annual Meeting of the Japanese Society of Immunotoxicology 日本免疫毒性学会学術年会**  
会期 2019年9月9日(日)・10日(火)  
会場 北九州国際会議場 国際会議室(2階)  
年会長 佐藤 実 (産業医科大学産業保健学部 成人・老年看護学講座 教授)  
MENU  
TOP  
年会長挨拶  
開催概要  
プログラム  
演題募集  
参加登録  
参加者の方へ  
座長・発表者の方へ  
会場アクセス  
学会事務局  
第26回日本免疫毒性学会学術年会事務局  
〒807-8555 福岡県北九州市八幡西区医学生ヶ丘1-1 産業医科大学産業保健学部 成人・老年看護学講座  
J 093-691-7279  
E 093-691-7142  
jsit26-office@mbx.health.uoeh-u.ac.jp  
学会からのお知らせ  
2019/07/23 「演題登録」「事前参加登録」を締め切りました。  
2019/07/04 「演題登録」「事前参加登録」の期間を7月22日(月)まで延長しました。  
2019/05/31 「参加登録」のページを公開しました。  
2019/05/31 演題募集を開始しました。募集期間は2019年5月31日(金)～7月8日(木)までとなります。多数のご応募をお待ちしております。ご応募に関する詳細情報は、「演題募集」ページをご確認ください。  
2019/05/31 「プログラム」のページを公開しました。  
2019/05/31 「開催概要」のページを公開しました。  
2019/05/31 「学会長挨拶」のページを公開しました。  
2019/05/31 第26回日本免疫毒性学会学術年会のホームページを開設しました。

#### (1) 実施概要

期日 2019.9.9-10.

会場 北九州国際会議場

年会長 佐藤 実 (産業医科大学産業保健学部 成人老年看護学講座)

テーマ 免疫毒性 基礎から臨床へ

年会賞 中外製薬株式会社研究本部 生野 達也

学生・若手優秀発表賞 花王株式会社安全性科学研究所 横関 京介  
産業医科大学第一内科 張 明増

同時開催 第76回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会

共催 日本産業衛生学会アレルギー免疫毒性研究会

協賛 北九州市、(公財)北九州観光コンベンション協会、日本衛生学会、日本食品衛生学会、日本毒性病理学会、日本臨床環境医学会、日本毒性学会

後援 日本アレルギー学会

(2) 第26回日本免疫毒性学会学術年会報告

<演題数>#

#	MVIW534< 北九州#	MVIW534; つくば#	MVIW534:## 十和田#	MVIW5349 北九州#	MVIW5348 京都#
ポスター#	64#	59#	55#	49#	49#
一般口演#	45#	43##	44#	43#	44#
若手#	46#	<#	6#	5#	6#
一般# .若手演題数#	76#	69#	66#	59#	5:#
総会#	4#	4#	4#	4#	4#
受賞講演#	6#	5#	5#	5#	6#
ランチオン#	5#	5#	5#	5#	5#
シンポジウム#	7#	7#	7#	7#	7#
試験法ZV#	9#	6#	7#	7#	7#
特別講演#	4#	4.#IV#	5#.Nh qrwh##	4#	5#
教育講演#	5#	4#	4#	6#	4#

ポスターには、学生・若手優秀発表賞応募者を含む。

<参加者>#

学術年会参加者#


#	事前#	当日#	招待#	#
学会員##	64#	59#	#	#
協賛・後援学会員#	3#	7#	#	#
学生会員#	4#	6#	#	#
非会員#	45#	4<#	#	#
新会員#	6#	5#	#	#
新学生会員#	6#	44#	#	#
計#	83#5名欠席,#	98#	9#	44<##5名欠席,#

#

市民公開講座（無料）： :8#名#

#

[2-2] 第27回@オンライン大会 角田次期年会長



免疫毒性学の過去、現在、未来

第27回日本免疫毒性学会  
学術年会

会期：2020年9月26日（土）～9月27日（日）  
会場：WEB開催  
会長：角田 正史（防衛医科大学校医学教育部 衛生学公衆衛生学講座 教授）

[2-3] 第28回@今治 手島次々期年会長

- (1) 場所：岡山理科大学獣医学部大講義棟 〒794-8555 愛媛県今治市いこいの丘 1-3
- (2) 日程：2021年9月6日（月）～7日（火）（テーマ：自然免疫と獲得免疫のかかわりと免疫毒性）
- (3) 事務局：邊見弘明（岡山理科大学獣医学部免疫学講座）、黒田悦史（兵庫医科大学 免疫学講座）、吉岡靖雄（大阪大学微生物病研究所 BIKEN 次世代ワクチン協働研究所）、手島玲子
- (4) ホームページ：準備中
- (5) 特別講演・シンポジウム＋試験法 WS

特別講演1：次世代型ワクチン（人工アジュバントベクター細胞(aAV)）の開発  
藤井真一郎先生（理化学研究所生命医科学研究センター免疫細胞治療研究チーム）

特別講演2：Dr. Jeamine Bussiere (Scientific Executive Director of Toxicology, Amgen com.)  
シンポジウム：種々のワクチンの開発状況とその安全性評価について

シンポジスト（予定）

1. MicroRNA とワクチン接種時の炎症、押海裕之先生（熊本大学大学院生命科学研究部免疫学講座教授）
2. 経鼻ワクチンの安全性、幸義和先生（株HanaVax 取締役 最高技術責任者）
3. ヒト化マウスを用いるワクチンの安全性評価法、佐々木永太先生（国立感染症研究所血液・安全性研究部）
4. 魚類ワクチンの開発と今後の展望、飯田貴次先生（岡山理科大学獣医学部魚病学講座）

教育講演：(1)「進化から見たアレルギー疾患の意義」－自然リンパ球(ILC-2)の役割も含めて－  
松本健治先生（国立成育医療センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部）

教育講演：(2)「新型コロナワクチンについて」、吉川泰弘先生（岡山理科大学獣医学部学部長）

試験法ワークショップ：本学会試験法委員会による企画



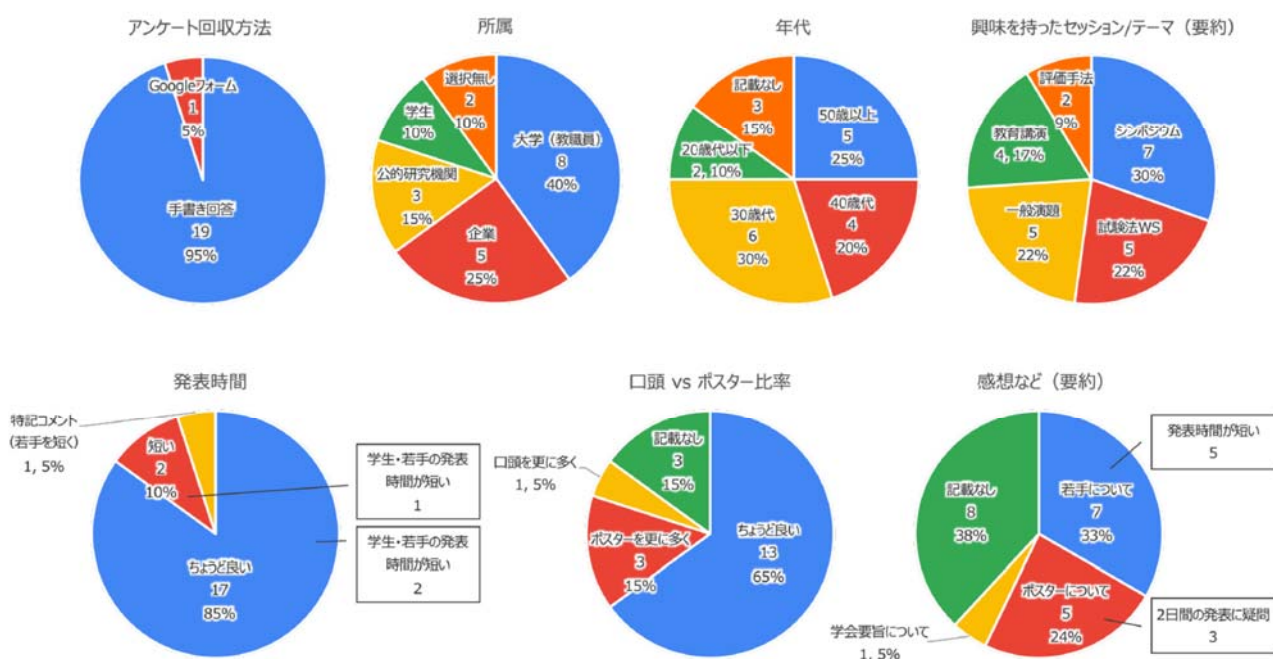
### [3] 委員会報告

#### [3-1] 学術編集委員会

##### (1) 第26回学術大会でのアンケート結果

去る2019年9月9-10日に北九州国際会議場で開催されました学術年会においてアンケートを行い、20名から回答を頂きました。集計結果をImmunoTox Letterに掲載するとともに、学会ホームページの学術年会のページの第26回学術年会の欄に掲載いたしました。

#### 第26回日本免疫毒性学会学術年会アンケート結果（選択式質問回答および2.1)-①, 2.1)-③の回答要約）



##### (2) 学会賞・奨励賞選考結果（理事会メール会議承認済み）

学会賞奨励賞選考委員長手島玲子先生（任期 2020 年年会開催時）のもと、4名の選考委員が組織され、3月25日に受賞の選考結果が報告された。

##### ・学会賞

井上智彰先生（前 中外製薬株式会社・研究本部）

医薬品の免疫毒性 in vitro 新規評価系の研究開発

##### ・奨励賞

青木重樹先生（千葉大学大学院薬学研究院 生物製剤学研究室）

HLA 遺伝子導入マウスを用いた特異体質薬物毒性研究

木戸尊將先生（東京慈恵会医科大学環境保健医学講座）

## 亜鉛欠乏症に起因する免疫機能低下に関する研究

### (3) ニュースレターの発行（新藤編集長）

Vol. 24-2 を 2019 年 12 月に、Vol.25-1 を 2020 年 7 月に発行した(別添)。

### (4) 米国 SOT Immunotoxicology specialty section (ITSS) Newsletter への投稿（西村先生）

## [3-2] 広報委員会

### 活動内容

#### 1) 学会HPの更新・・・福田印刷（加古様）への依頼

(1) 役員の更新（2019.11）

(2) Facebook, Twitterアイコン追加（2019.11）, スマホ版メニューでのアイコン追加

(3) 学会賞, 奨励賞応募案内（2019.11）

(4) ImmunoTox Letterページ関係(2019.11-2020.3)

- ・アーカイブリスト日/E表組み
- ・ImmunoTox Letter新号の発刊案内（48号Jor E (Vol24 No.2/2019)）
- ・html版の廃止（→左欄に「旧html版書庫」を設置）,
- ・投稿規定アイコンの削除（→左欄に「投稿規定」を設置）
- ・サムネイル表示
- ・投稿規定の移動, および変更に伴う上部プルダウンメニューの訂正

(5) 学術年会関係

- ・次回年会お知らせ内, URLのリンクの掲載（2020.4）
- ・次回年会お知らせ内,開催場所を“Web開催”へ変更（2020.7）

(6) 連携学会関係

・米国毒性学会SOT2020（Anaheim開催からWeb開催への変更による）Virtual Meeting Program: "Can we Predict and Manage Immune-Related Adverse Events Associated with Cancer Immunotherapy?"のメールでの案内→事務局への依頼

#### 2) 学会Facebook pageによる発信<https://www.facebook.com/j.immunotox/>

2019年10月から2020年6月に、20件の情報を発信した。

#### 3) 学会Twitterアカウントによる発信[https://twitter.com/js\\_immunotox](https://twitter.com/js_immunotox)

この 28 日間で、ツイートによって 553 件のインプレッションを獲得しました。



### [3-3] 試験法委員会

#### 1) 試験法ワークショップ

2020 年度 学術年会の試験法 WS は、以下の内容で web 開催により行った。

テーマ「最先端技術の免疫毒性評価への展開」

##### 1. 炎症細胞死の 1 細胞イメージング

東京大学大学院 生物化学専攻 白崎善隆 先生（黒田先生のご紹介）

##### 2. シングルセルの免疫毒性研究応用への可能性

兵庫医科大学 黒田悦史 先生

##### 3. 組織工学とマイクロ流体デバイス技術を用いた哺乳類の合成生物学

東京工業大 生命理工学院 田川陽一 先生（足利先生のご紹介）

##### 4. 医薬品開発におけるヒト免疫生理学的機能の非臨床 in vitro 安全性研究

中外製薬（株） 久保千代美 先生

#### 2) AOP 検討小委員会

##### 2-1) 委員

大石 巧	株式会社 ボゾリサーチセンター	委員長
足利 太可雄	国立医薬品食品衛生研究所	
伊藤 志保	第一三共株式会社	
大坪 靖治	株式会社 新日本科学	
串間 清司	アステラス製薬株式会社	
小西 寿美恵	日本たばこ産業株式会社	
小松 弘幸	株式会社 シミックバイオリサーチセンター	
後藤 玄	株式会社 ボゾリサーチセンター	
杉本 潤一郎	株式会社 ボゾリサーチセンター	
田食 理沙子	一般財団法人 残留農薬研究所 新加入	
秦 信子	株式会社 Ig-M	
福山 朋季	麻布大学	
松村 匠悟	アステラス製薬株式会社	
吉田 安宏	産業医科大学	

##### 2-2) 開発中の AOP

## AOP154 : Inhibition of Calcineurin Activity Leading to Impaired T-Cell Dependent

### Antibody Response

- 2020年2月11日: OECD より External review からのコメントが届いた。コメントに対する対応を検討した(医薬品以外の Stressor を追加すること, IL-4 抑制と TDAR 抑制の KER の情報不足)
- 2020年2月18日: コメントに対する対応方針 (Author Reply) を OECD に提示した。
- 2020年2月19日: 提示した Author Reply の内容を基に、レビューアと Web 会議を行い、コメントに対する対応方針について合意した。
- 2020年3月30日; アドバイスに従い AOP-wiki の加筆修正を行い、レビューアに修正完了の連絡を行った。
- 2020年06月15日: レビューアより、次回の EGMST 会議で最終化承認依頼を提出する旨の連絡を受けた。
- 2020年06月25/26日: EGMST 会議開催。レポートはまだ届いていない。

### 2-3) 新規提案 AOP

現在、以下の3件のAOPを開発しており、AOP-wiki への登録が完了し、コーチングに対応している。

#### 1) AOP315 : JAK3 阻害による TDAR 抑制

後藤玄、福山朋季、吉田安宏

コーチ : Shihori Tanabe

#### 2) AOP313 : Toll 用受容体 (TLR) 7/8 活性化による乾癬様皮膚疾患の誘発

小松弘幸、秦信子、松村匠吾

コーチ : Julija Filipovska

#### 3) AOP314 : エストロゲン受容体活性化による全身性エリテマトーデスの増悪

大坪靖治、小西寿美恵、伊藤志保、田食 理沙子 (4月から新規加入)

コーチ : Sabina Halappanvar

### 3) JaCVAM からの査読依頼

国立衛研の小島先生を介して OECD WNT から、In vitro 免疫毒性試験に関する総説のレビューの依頼があり、試験法委員会で対応して8月末までにコメントをまとめて提出した。

### [3-4] 連携学会委員会（吉岡委員）

委員長：角田正史、吉岡靖雄

委員：西村泰光、福山朋季

アドバイザー：中村和希

#### 1) SOT2020 におけるシンポジウム

2020 年 3 月15-19 日 アナハイム（カリフォルニア）：3 月16 日AM8:00-10:45

Can we predict and manage immune-related adverse events associated with cancer immunotherapy?

→COVID-19 により中止

Webinar で開催（西村先生：免疫毒性学会 Facebook でも案内頂いた。）

2020 年 6 月25 日6:00 PM to 8:45 PM (ET) 日本時間 6 月26 日午前 7 時から

参加者は 130-150 人程度（後半は 110 名程度）。

#### 2) SOT2021 におけるシンポジウム

結論：申請せず

経緯：下記の内容で 3 月に ITSS に提案したが、SOT2020 シンポジウムの内容を SOT2021 に繰り越す可能性も考えられ、SOT2021 について深く協議することが困難となり、申請を断念した。

Immunotoxicity of essential and non-essential metals by environmental and occupational exposure

JSIT 演者：木戸尊将先生（東京慈恵会医科大学）

JSIT 演者：黒石智誠先生（東北大学）

#### 3) 日本毒性学会での合同シンポジウム

第 48 回日本毒性学会学術年会における、日本免疫毒性学会合同シンポジウムを以下の内容で開催の予定である。

表題：多様な医薬品モダリティに対応する免疫毒性研究の最前線（日本免疫毒性学会・合同企画）

座長：西村泰光先生（川崎医科大学）、串間清司先生（アステラス製薬株式会社）

演者：櫻井文教先生（大阪大学）、井上貴雄先生（国立医薬品食品衛生研究所）、久保千代美先生（中外製薬株式会社）、澤田留美先生（国立医薬品食品衛生研究所）、山本拓也先生（医薬基盤・健康・栄養研究所）

#### 4) 第 27 回日本免疫毒性学会学術年会における特別講演

Dr. Jeanine Bussiere (Amgen)の来日が困難となった。

第 28 回年会（愛媛）において、Dr. Jeanine Bussiere (Amgen)に講演依頼し、ご快諾頂いた。

### [3-5] 将来構想委員会（黒田委員・吉岡委員）

#### 1) 2019 年度の活動について

- 例年、学会前に参加の勧誘（声かけ）などを行なっていましたが、本年度はコロナ禍の問題もあり、新規会員の勧誘は行なっておりません。
- 試験法委員会の「最先端技術の免疫毒性評価への展開」というタイトルでのワークショップに関して、串間先生からのご提案もあり、将来構想委員会も協力させていただいた。メールベースのディスカッションでありましたが、「最先端技術」に関する内容だったこともあり、非常に有意義なディスカッションがなされました。

#### 2) 議題 2 <初回のみ年会費無料の制度について>

- 第 25 回からスタートした本制度ですが、現在までに
  - 第 25 回（つくば）：6 名（1/6）入会総数は 6 名
  - 第 26 回（北九州）：8 名（1/8）入会総数は 6 名となっています。（山浦理事、浅野様からの情報です）。
- 現在改めて本制度の意義と新たに生じた問題点について検討しています。

#### 3) 講演の Web 配信について

一般演題以外のシンポジウム、教育講演、招待講演、受賞講演、（試験法 WS？）の WEB 配信について、学会員の意見を踏まえながら検討いたします。

## [4]事業報告

(2019年10月から2020年9月)

### [4-1] はじめに

日本免疫毒性学会は、その前身である免疫毒性研究会として発足以来、免疫学と毒性学の双方に係わる異分野の研究者の方々の情報収集と意見交換の場として機能してきました。学際的な学会でありながら、先進性と応用性のある研究動向を維持しつつ、環境、食品、医薬品等、人の健康に係わる諸要因に対して免疫毒性学的な観点から研究活動を展開し、国民の健康維持増進に貢献してきました。

2019年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、波乱の学会運営を余儀なくされました。第27回学術年会（年会長：角田正史先生）は、これまで経験したことのない様々な問題を乗り越え本学会初のWeb年会として開催されました。中止となった第59回米国トキシコロジー学会年会で開催予定であった当学会と米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会（SOT-ITSS）との共同シンポジウムにつきましては、SOT-ITSSとの強い協力関係のもとサテライトでのWeb開催が実現いたしました。JaCVAMから委託を受けた事業につきましても多くの学会員が関わりました。免疫毒性学に対する全ての学会員の強い意思を感じた1年間となりました。

2019年の活動につきまして、以下にまとめご報告いたします。

### [4-2] 事業（2019年10月から2020年9月まで）

#### 1) 2020年の理事会の開催

2020年9月23日に、Web会議により開催されました。

#### 2) 2020年の総会・評議委員会の開催

2020年9月28日からメールベースで開催されました。

#### 3) 第27回日本免疫毒性学会学術年会の開催

第27回日本免疫毒性学会学術年会は、Web年会として、2020年9月26～27日に、年会長の角田正史理事（防衛医科大学校医学教育学部医学科衛生学公衆衛生学講座）のもとに開催されました。年会のテーマは、「免疫毒性学の過去、現在、未来」とされました。

URL：<http://procomu.jp/jsit2020/index.html>

#### 4) ImmunoTox Letter の発行

下記の2号を刊行しました。

24巻第2号（通巻48号、2019年12月号）

25巻第1号（通巻49号、2020年6月号）

#### 5) 第10回（2020年）学会賞及び奨励賞の授与

学会賞は井上智彰先生（前 中外製薬株式会社）に、奨励賞は青木重樹先生（千葉大学大学院薬学研究院）と木戸尊将先生（東京慈恵会医科大学）に授与されました。なお、今回から副賞は廃止されましたが、記念品が授与されました。

6) 第 28 回日本免疫毒性学会学術年会 (2021 年) の開催準備

第 28 回日本免疫毒性学会学術年会は、愛媛県にて、手島玲子理事 (岡山理科大学獣医学部食品衛生学講座) を年会長として開催の準備が進められています。

期日: 2021 年 9 月 6~7 日

会場: 岡山理科大学獣医学部大講義棟

テーマ: 「自然免疫と獲得免疫のかかわりと免疫毒性」

7) 第 59 回米国トキシコロジー学会年会 (2020 年、Anaheim) での共同シンポジウム

第 59 回米国トキシコロジー学会年会は、COVID-19 のため中止となったが、SOT-ITSS との共同シンポジウム "Can we predict and manage immune-related adverse events associated with cancer immunotherapy?" は 6 月 25 日に Webinar にて代替開催された。JSIT からは、佐藤 実先生 (産業医科大学)、池田裕明先生 (長崎大学) が講演され、吉岡靖雄 (大阪大学) が座長を務めた。

8) 第 29 回日本免疫毒性学会学術年会 (2022 年) の開催地及び年会長の決定

第 29 回日本免疫毒性学会学術年会の年会長につきましては、理事会 (2020 年 9 月 23 日) において小島弘幸理事 (北海道医療大学薬学部衛生薬学講座) が推薦されました。

9) 関連学会等との連携企画の開催

第 27 回免疫毒性学会学術年会は、第 77 回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会との共催としました。

日本毒性学会学術年会での合同シンポジウムは隔年で企画されることになっているため、第 47 回日本毒性学会学術年会 (2020 年) では開催されませんでした。

#### [4-3] 事務局及び諸委員会の活動

以下の活動を行いました。運営委員会 (2019 年 12 月 27 日及び 2020 年 7 月 12 日、26 日) において、会務運営や学術年会開催準備等が円滑に進むように図りました。

1) 事務局 (山浦理事)

- ・ 会員数 (一般・学生・賛助・名誉) と会費納入状況の把握、会費未納退会処理等の事務
- ・ 問合せ対応業務

2) 財務 (小池理事)

- ・ 会計に関する事務 (本年度から通常会計と基金会計を統合しました)
- ・ 決算書及び予算書の作成

3) 学術・編集委員会 (委員長: 小島理事)

ImmunoTox Letter の編集・発行を年 2 回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメールマガジンにて周知を図りました。また、英語版の発行も継続しています。

4) 広報委員会 (委員長: 西村理事)

役員更新、Facebook・Twitter アイコンの追加、学会賞・奨励賞応募案内、ImmunoTox Letter 関連ページの更新、年会お知らせ等、継続して学会ホームページの更新を行い、英文ホームページの充実にも努めました。さらに、学会 Facebook ページからの発信を積極的に行い、Twitter アカウント js\_immunotox からの発信では、直近過去 28 日間（2020 年 7 月 25 日時点）に 957 件のインプレッション（ツイートがユーザーに見られた回数）を獲得しました。

#### 5) 試験法委員会（委員長：申間理事）

第 27 回学術年会では、4 名の演者から Web での発表可能との返答をいただき、ワークショップ「最先端技術の免疫毒性評価への展開」を開催しました。従来の免疫毒性評価法に加えて新しい技術の活用に関して、産官学のコミュニケーションの機会となりました。

##### ・AOP 小委員会

JaCVAM から日本免疫毒性学会が作成依頼を受けた OECD AOP（Adverse Outcome Pathway）における免疫毒性に関する AOP 開発に関して、14 名の本学会員からなる AOP 小委員会が対応しました。AOP154 は外部レビュアーによるコメントに対応し、最終化承認依頼が EAGMST に提出されている。さらに、3 件の AOP 開発を進めており、コーチのコメントに対応している。

##### ・JaCVAM 関連

JaCVAM 評価会議は、構成メンバーの大幅な減少に伴い今年度から免疫毒性学会からの常時参加ではなく議題に応じてスポットでの参加に変更になっている。今年度は会議への参加依頼はなかったが、総説の査読依頼があり試験法委員会にて対応した。

#### 6) 連携学会委員会（委員長：角田理事、吉岡理事）

第 27 回日本免疫毒性学会学術年会を第 77 回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会との共同開催しました。

第 27 回日本免疫毒性学会学術年会の特別講演に、Dr. Jeanine Bussiere (Amgen) を招聘していたが、来日が困難となった。第 28 回年会（2021 年）における特別講演を要請し承諾いただいた。

前述の第 59 回米国トキシコロジー学会年会（SOT 2020、Anaheim）における ITSS との共同シンポジウムを企画しました。同年会は中止となったが、シンポジウムを Webinar にて ITSS と共同開催しました。

SOT2021 における共同シンポジウムでは、タイトルを”Immunotoxicity of essential and non-essential metals by environmental and occupational exposure”として ITSS に提案した。ただし、SOT2021 の見通しが見つからないことから本部への申請を見送られた。

第 48 回（2021 年）日本毒性学会学術年会における日本免疫毒性学会合同シンポジウムとして、「多様な医薬品モダリティに対応する免疫毒性研究の最前線」を企画・提案し採択されました。

#### 7) 将来構想委員会（委員長：黒田理事）

第 25 回日本免疫毒性学会学術年会から開始された、非会員の年会発表受付を継続。2020 年の第 27 回免疫毒性学会学術年会（Web 年会）でも、「非会員でも 1 回に限り年会参加費のみで演題発表できる」制度が適用されました。今後の 5 年間で学会として何を目指してゆくか、議論を継続している。



## II. 審議事項

### [1] 会計

① 2019 年度決算（案）

注）2018 年度（会計年度）までは、学術年会返納金や学会賞・奨励賞副賞、個人的な寄付等を通常会計から分離して別途、基金会計として管理していたが、2019 年度（会計年度）から、基金会計を通常会計に統合しました。

② 2019 年度会計監査報告

③ 2021 年度予算（案）

### [2] 人事

① 名誉会員

該当者なし

② 理事

変更なし

③ 評議員

(1) 7/16-8/20 で現在の評議員 2 名による推薦を受付（略歴と業績、推薦書を理事会にて確認）

- 大石 巧 先生 （会員番号 00000647）

推薦者：串間 清司、久田 茂評議員

- 室本 竜太 先生 （会員番号 00000686）

推薦者：吉岡 靖雄、小島 弘幸評議員

④ 次々期年会長

理事会よりの推薦

- 小島弘幸 先生（北海道医療大学@札幌）

### [3]事業計画

(2020年10月から2021年9月)

#### [3-1] はじめに

本学会は、免疫学と毒性学の接点について多方面からかかわる異分野の研究者の方々の情報収集と意見交換の場として、極めて学際的な学会として機能してきました。2020年度も、その特色である先進性と応用性のある研究動向を維持しつつ、医学・生物学の新たな技術的展開に対応し、会員にとって有益な学会となることを目指します。

2020年度も引き続き学会の運営基盤の一層の強化と国内外における学術活動を展開します。2021年9月には第28回学術年会の開催を予定しています。日本毒性学会などの国内関連学会をはじめ米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会(SOT-ITSS)との交流も継続して参ります。同時に、本学会に期待される学術的専門性に対する責任を果たすべく、本学会が委託を受ける事業についても積極的に取り組みます。

学会の持続的発展を可能とするため、世代交代と人材養成を図りながら、体制の強化を今後も行います。また、会員・入金管理一体型サービスを導入し会員の皆様へのサービス拡充に努めます。

会計年度は4月から翌年3月の期間としています。また、補充役員の任期に関しましては、総会の翌日の10月1日から任期開始とし、任期満了日は正規役員の満了日と同一日とすることといたします。

#### [3-2] 事業計画 (2020年10月から2021年9月まで)

##### 1) 2021年の理事会開催

2021年9月に愛媛県にて開催の予定です。

##### 2) 2021年の総会・評議委員会の開催

2021年9月に愛媛県にて開催の予定です。

##### 3) 第28回日本免疫毒性学会学術年会(2021年)の開催

手島玲子理事(岡山理科大学獣医学部食品衛生学講座)のもと、2021年9月6~7日に、岡山理科大学獣医学部大講義棟(愛媛県)にて開催します。

##### 4) ImmunoTox Letter の発行

下記の2号の刊行を予定しています。

25巻第2号(通巻50号、2020年12月号)

26巻第1号(通巻51号、2021年6月号)

##### 5) 学会賞及び奨励賞の選考

第11回(2021年)学会賞・奨励賞の選考を行います。

##### 6) 第29回日本免疫毒性学会学術年会の準備

第 29 回日本免疫毒性学会学術年会（2022 年）の年会長は、理事長が委嘱した者について総会で承認を受けたのち、企画を開始していただきます。

#### 7) 関連学会等との連携

関連学会等との連携により、免疫毒性をテーマとした学術集会等を企画します。

第 28 回日本免疫毒性学会学術年会（愛媛、2021 年）を第 78 回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会との共同開催とします。

また、第 48 回日本毒性学会学術年会（2021 年）において、日本免疫毒性学会との合同シンポジウムを開催します。

第 60 回米国トキシコロジー学会（2021 年）における SOT-ITSS との合同シンポジウムは諸般の事情で開催を断念することになりましたが、第 61 回米国トキシコロジー学会（2022 年）における企画を検討します。

### [3-3] 事務局及び諸委員会の活動

以下の活動を予定し、詳細は運営委員会（2020 年 12 月及び 2021 年 7 月に開催予定）で検討されます。

#### 1) 事務局（山浦理事）

- ・会員数（一般・学生・賛助・名誉）と会費納入状況の把握、会費未納退会処理等の事務
- ・問合せ対応業務

#### 2) 財務（小池理事）

- ・会計に関する事務
- ・決算書及び予算書の作成

#### 3) 学術・編集委員会（委員長：小島理事）

ImmunoTox Letter の編集・発行を年 2 回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメールマガジンにて周知を図ります。また、英語版の発行も継続して行います。

第 11 回（2021 年）学会賞及び奨励賞の表彰のため、学会賞等選考小委員会委員長を指名し、受賞候補者の選考を依頼します。

#### 4) 広報委員会（委員長：西村理事）

継続して学会ホームページの定期的な更新を行い、英文ホームページの充実に努めるとともに、Facebook 及び Twitter からの発信を積極的に行います。また、バナー広告企業を新たに増やすため、勧誘を行います。

#### 5) 試験法委員会（委員長：申間理事）

本学会内での免疫毒性試験法に関する議論を深める目的で、第 28 回学術年会（愛媛）においてワークショップを開催します。

また、JaCVAM から日本免疫毒性学会が依頼を受けた AOP (Adverse Outcome Pathway) の開発に引き続き取り組んでいきます。

6) 連携学会委員会 (委員長: 角田理事、吉岡理事)

第 28 回学術年会 (2021 年) 事務局及び SOT-ITSS の補助により、第 28 回日本免疫毒性学会学術年会の特別講演に、講師として Dr. Jeanine Bussiere (Amgen) を招聘いたします。

第 48 回日本毒性学会学術年会 (2021 年) における日本免疫毒性学会合同シンポジウムとして、「多様な医薬品モダリティに対応する免疫毒性研究の最前線」を開催します。日本毒性学会学術年会での合同シンポジウムは隔年で企画されることになっているため、第 49 回同学術年会 (2022 年) において、合同シンポジウムの開催予定はありません。

SOT2022 における SOT-ITSS との共同提案によるシンポジウムを企画・立案します。

7) 将来構想委員会 (委員長: 黒田理事)

5 年後に学会として何を指してゆくかについて、さらに議論を継続します。学会の持続的発展を可能とするため、特に、若手会員の新規参加者を増やすための方策についても引き続き検討を進めます。また年会においての Web 配信の活用について提案を行います。

以上